



原発の耐震設計基準は一般住宅の1/10以下

能登半島地震では想定を超える揺れが観測された。

志賀原発では外部電源を受ける変圧器が壊れ冷却用の油が流出。

「想定を超えた」と云うが、それは「設計時の想定が間違っていた」と云う事。原発の安全審査の根本が覆された。

ハウスメーカーの家は

樋口英明氏(福井地裁で大飯原発を止める判決を出した)は著書「私が原発を止めた理由」に書いている。それには、

宮城内陸地震(二〇〇八年)の地震動は四〇センチガル。そこでハウスメーカー・三井ホームは耐震基準を五一一五ガルとした。

一方、大飯原発が想定している地震動は四〇五ガルのまま。

個人向け住宅では耐

震設計基準を強化しているが、原発は三井ホームの耐震基準の1/10。

実際、能登半島地震では最大加速度二八二八ガルが観測された。

原発の耐震基準の五倍。原子力規制委員会は全ての原発の耐震設計基準を何倍にもしなければならぬのだ。

断層は？

今回の地震では四m以上も隆起した所がある。能登半島の北側の長さ一五〇kmの断層が逆断層として動いた。

その大きな断層の動きに付随して新たな断層が出来たかも知れない。畑の中に断層が出来た映像もある。断層が原発の下になくても、新たに断層が出来ると考えなければならぬ。

あなたはどう思われますか？

稲荷坂

横浜市南区中村町

二〇二四年一月



この絵の後方は、米軍根岸住宅地。一九四七年に米軍が接收。四三ヘクタール(約六五〇m四方に匹敵)の土地に三八五戸。道路も含めて一戸当たり約三百坪の住宅地だ。

今、米人は住んで居ない。二〇〇四年に日本への返還が合意されたが、二〇一九年に日米共同使用で合意とか。

稲荷坂は、その住宅地の入り口から、堀割川の中村橋へ向かって降りる坂。

この先の直線部分は百メートル当たり十二メートル下がる急な坂。

稲荷坂と云う名前は、坂の途中に「中村稲荷」があったから。今は坂の下に移転している。

競輪の選手であろうか、自転車をこいで坂を上り、下りは降りて歩くのを繰り返している人がいた。トレーニングには最適らしい。

